

はじめに

当機関は、昭和 47 年に市保健所内に衛生試験所として設置されて以来、試験検査や調査研究に努めてまいりました。その後、平成 7 年には、「環境総合研究所」として現在の地に新築移転し、特に地下水を始めとした豊かな環境を保全するために、様々な検査体制を整備してきたところです。このような中、本市は平成 24 年 4 月 1 日に全国で 20 番目の政令指定都市へと移行しました。これに伴う組織改編の中で、当機関は従来の機能に加え、環境学習機能の強化を図るため、名称を「環境総合研究所」から「環境総合センター」へと変更いたしました。

環境保全を学習する中で、湧水を起源として良質な水質を維持している江津湖は、中心市街地にも近いことから市民のオアシスの場として親しまれていますが、近年、水量の減少や硝酸性窒素による地下水汚染が表面化し、その対策のための水質調査を継続して実施しています。また、平成 23 年度からは生物多様性の面から江津湖の水生生物（底生動物）や植物に関する調査も開始しております。

また、水環境以外にも、市民の皆さんの温暖化対策をはじめとする地球環境問題への関心が高いことから、小学生から成人の方まで幅広い世代を対象としてセミナーや教室などを開催し、クリーンなエネルギーである燃料電池、太陽・風・水などの自然エネルギーをテーマとした科学実験を通して、身近な生活において実践できる保全活動の啓発も行っています。

一方、平成 23 年度は東京電力福島第一原発の事故を受け、本市でも放射性物質という新たな危機事象への対応を求められ、10 月にはシンチレーションサーベイメータを導入し、現在まで大気中の放射線量率の定期的な測定を続けています。また、食品についても放射性セシウムのスクリーニング検査を開始すべく、平成 24 年度に機器の導入を図ったところです。更には、生食用食肉の安全性を確保するための検査体制の整備を求められた年でもありました。

今後とも、市民の皆さんの安全・安心を確保するための調査研究に努めながら、体験型の環境学習機能を強化してまいります。

最後になりましたが、ここに平成 23 年度の年報を発行いたしました。ご高覧いただき、ご指導、ご助言を賜りますようお願い申し上げます。

平成 25 年 2 月

熊本市環境総合センター所長

藤井 幸三